

何を表しているのか？ 豚の牙が描かれている国旗

世界の多くの国では、憲法や国旗法でその形（縦横比）や色を決めているが、そのなかでユニークなのはアルジェリアの国旗であろう。

というのも、普通国旗の色は抽象的に海の青とか、ルビーのような赤といった言葉で表されるが、この国の旗はなんと、緑と赤の色を光学的波長で決めているのである。

ここで、国旗のデザインを見てみよう。圧倒的に多いのが三色旗で、ほかに太陽・月・星を描いたものも多い。動物のものは紋章の一部に描かれたものを除いても結構多く、竜を描いたブータン、ライオンのスリランカなどはよく知られている。

そうなるとう気になるのは、豚を描いた国旗はないのかということである。

残念ながら豚の全身像のものはないが、豚の牙を描いた旗がバヌアツ共和国（メラネシアの島国）にみられる。

この旗は独立と同時に一九八〇年に制定。かつてはあまり見られなかった赤・緑・黒・黄の四色旗で、木の葉を囲む円形の豚の牙がデザインされている。



赤は太陽と団結、緑は国土、黒は肥沃な土壌と国民、黄は平和とキリスト信仰、木の葉は聖なる葉、豚の牙は富の象徴だという。

バヌアツは基本的には焼き畑による農耕文化の国である。しかし、彼らは豚に強い関心を持っており、各戸で飼育をしている。

むかし、豚は肉としての価値を持つばかりでなく、同時に貨幣でもあったのだ。

バヌアツの豚は野生種に近く（外見はほとんど猪）、下アゴからはえる牙を持っている。その曲がりが大きく、円に近いものほど価値があるとされる。祭りや葬儀の際にどれだけ立派な豚を多数供物として提供できるかがステータスシンボルなのである。